



早稲田から「新世界」を奏でる
新宿交響楽団（大隈講堂）

ルな早稲田の杜は都市と農村の接点となっていました。馬場下の駒留橋の左先にはやっちゃ場（市場）があり、練馬などから農家が売りに来たそうです。帰りには早稲田界隈のゴミ桶から下肥をいっばいにしてリヤカーで帰っていました。返礼に農家が「代金はいらないよ」と野菜を置いていくこともありました。早稲田通りが急坂だったため、今のそば屋「三朝庵」の前で一息ついてから農家のリヤカー引きが息をきらして上っていったといひます。

すっかり都市化した現在も、神田川沿の斜面地には甘泉園、椿山荘、江戸川公園、芭蕉庵など都内でも珍しく自然あふれる場所がたくさん残っています。今でも探せばみようが見つけられます。こうした土地柄が環境面での「早稲田らしさ」の基礎を形づくってきました。

そこに早稲田に大学が由来しました。やがて周辺地域に苦学生に対応して、リサイクルの元祖ともいえる古本屋が登場しはじめます。現在早稲田は古書店の集積が東京の中で

有数の地です。古いものを学生と地域社会が協力して大切にすするリズムが早稲田のまちには出ています。こうして、もともとの豊かな自然環境の上にエコロジカルな習慣・発想が地域社会に染み込んでいるのが早稲田界隈といえます。古くから学生のまちとしての歴史を踏まえつつも、もともとの土地と私たちの人間の関係を見直し、高度経済成長時代の無秩序な土地利用を元の状態にほぐしていくこと（ミチゲーション）をゆつ

くり進め、にぎわいと活気を持続させながらも、いわば土地を「地霊」に返していくことが二世紀の私たちの大きな目標だと思います。

して早稲田大学生協も参加し、パートナーシップの実行委員会を組織して企画されています。このイベントは環境のみならず、地域活性化、福祉、防災、情報化、国際協力などの包括的な内容を持っていくことが特色です。前回「ワセダE COZON E」と称し、早大生協、学生NPO環境ロドリゲス、早稲田大学環境保全センター、早稲田商店会、新宿区環境保全課、新宿区資源清掃対策室のパートナーシップによる環境ブースが設定されました。早大生協は、環境ブックフェア、家電・家具リユ

ちづくりの小規模拠点を都電早稲田駅の駅前で運営し始め、生ゴミと空缶・ペットボトルの回収をテコにした商店街活性化に取り組みしています。そして、早大生協には環境委員会と、事業の環境対策の充実、学生の環境意識啓蒙等を進めています。

パートナーシップの環境まちづくり

大学周辺で環境まちづくりが進められています。早稲田には学生まち特有の身近な商店街があります。昔ながらの良さがあありますが、一方で今の学生のニーズに応え、新しい魅力を望む声もあります。

西早稲田地区では市街地再開発などの都市基盤整備に取り組んできましたが、ポストバブル期はそれに加えて、環境を切り口にした新しいまちづくりが始まりました。環境は時代の流れでもありますが、

歴史の長い目で見れば、早稲田の「地域遺産」が顕在化した動きといえます。九六年から早稲田大学の夏休みの空いたキャンパスを使って、環境と新しいまちづくりを考える社会実験のメッセージである「地球感謝祭ーエコサマーフィスティバルー」が開催されています。もともとこ

の呼びかけは、「早稲田大学周辺商店連合会」でしたが、現在では、趣旨に賛同したN

GO、NPO、地域団体、そ

う試みです。実際に日常のお

お弁当容器リサイクルへの挑戦

早大生協・環境委員会の最新の取り組みは、お弁当容器リサイクルの実験プロジェクトです。弁当容器は、紙ゴミとともに大学から出るゴミの大きな課題です。その減量のため新しく、早大生協モデルの弁当容器の試験的な使用を始めました。お弁当容器は、実は「地球感謝祭」で出会ったチャレンジ精神あふれるグループです。中は見えないけれども美味しそうな弁当容器がショッパで目止まったら、ぜひご注目。その使用体験の感想をお聞かせいただけます。

弁当販売で使われるのは、日本で始めてのことです。まず理工キャンパスの生協から実験販売します。学生さんが容器を面倒くさがらずに回収ボックスまで持ってきてくれるかどうかにかかっています。このプロジェクトの推進チームは、実は「地球感謝祭」で

二月が来れば思い出す、厳冬のラスカ・ハイウェイ。カナダからラスカまで約千キロ、シボレー・ブレイサーのアクセルを踏み続けた。カナダ出国は税関での停止は不要。徐行で通過し、じわりとアクセルを踏み込んだとき、雪のかたまりが車の前にふらりふらりと姿を現す。アラスカまで乗せてくれないかな、口髭から粉雪が舞い上がる。氷点下五十五度、軽い雪は空中を漂う。過去に多くのヒッチハイク経験のある僕は一つの誓いを立てていた、ヒッチハイカーは拒まない。アラスカに入ってく、ムース（大きなヘラジカ）をよけて路肩に落ちた。トンネルを抜けたところがカーブで、二匹のムースが悠然と横断していた。急ハンドルでは滑落は避けられず、針葉樹林に激突して停止。リヤ・ウインドウが割れた。積荷の味噌の袋が破れて飛び散っている。ヒッチハイカーは鉄パイプを手に取り、慣れた手つきでタイヤに食い込んだボデ

のきれいな容器は回収しリサイクル・ルートに載せるとい

ただければ幸いです。

「いいんぼう」は再生紙を使用しています。

く。（国際交流課 高橋史郎）

「いいんぼう」は再生紙を使用しています。